

こんにちは 松坂みち子 です

日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< No.286 2016.8.24 連絡先 402-1622 >



平和ツアー・・・鹿児島へ

8月19日から21日まで、平和委員会企画の平和ツアーで人生初の鹿児島へ行ってきました。特攻隊の飛び立った場所として有名な知覧と、鹿児島県東部の大隅半島に残る戦跡を訪ねました。



知覧では、特攻隊員の写真や遺書が展示されており、若くして命を落とさざるをえなかった一人ひとりにそれぞれの未来があったはずなのにと考えると、人の命を軽んじる戦争を始め、続けた人たちに怒りが湧いてきました。左の写真は、特攻隊員が最後の数日を過ごした「三角兵舎」です。死ぬために飛び立つ日を目前にして、言葉に出せない思いがきっとあったはずだと思えてなりません。

大隅半島では、地元の方が詳しく説明をしてくださいました。米軍は終戦の年の1月1日に鹿児島に上陸、日本の部隊はもちろん住民も抹殺する方針を持っていたそうです。そして大隅半島にはその本土決戦に備えて、砲台跡や地下に作られた通信基地、監視するための壕などが多く残されています。そしてそれらのいくつかは、地元の自治体によって整備され保存されています。実際に入れる通信壕（右の写真）では、「特攻隊の最後の通信『ピ———』が途切れたときが命の尽きた時をしめす」との話に、その音を聞き続けた通信員の思いを考えると、いたたまれませんでした。



何のための戦争だったのでしょ。国家のため？国家って何？国民を犠牲にして守るべき「国家」って何？

戦争は絶対にしてはいけない、その思いをさらに強くして帰ってきました。



みち子のひとりごと 市電

川治いに「歴史ロド」維新ふるさと道「」が整備され、木が多く植えられた公園のような空間が、ありました。市のちづくりの一端が見えたようです。

交差点の信号も、車用と電車の二段になっています。写真は、上が車用で赤、下が電車で赤、赤×となってます。慣れないと、一瞬どの信号を見ればいいのか迷いそうです。ま、電車の軌道の中は芝生になっていて、道路の真ん中に緑のじゅうたんが見えます。

鹿児島市に市電が走ってました。かつては和歌山にもあった路面電車です。着いた日には昔ながらの車体の電車も走っていましたが、いざ写真を撮ろうとすると現れません。代わりに、かわいらしかったチキンラーメンの広告電車です。



「あたらしい憲法のはなし」④

二民主主義とは

今度の憲法の根本となっている考えの第一は民主主義です。ところで民主主義とは、いったいどういうことでしょうか。みなさんはこのことばを、ほうぼうで聞いたでしょう。これが、あたらしい憲法の根本になっているものとおかねばなりません。しかも正しく知っておかなければなりません。

みなさんがおおぜいあつまって、いっしょに何かするときのことを考えてもらなさい。だれの意見で物事をきめますか。もしもみんなの意見が同じなら、もんだいはありません。もし意見が分かれたときは、どうしますか。

一人の意見できめますか。二人の意見できめますか。それともおおぜいの意見できめますか。どれがよいでしょうか。ひとりの意見が、正しくすぐれていて、おおぜいの意見がまちがっておとつていっていることもあります。しかし、そのはんたいのことがもっと多いでしょう。そこで、まずみんなが十分にじぶんの考えを、はなしあったあとで、おおぜいの意見で物事をきめてゆくのが、いちばんまちがいがなく、ということになります。そうして、あとの人は、このおおぜいの人の意見に、すなおにしがたがってゆくのがよいのです。このなるべくおおぜいの人の意見で、物事をきめてゆくことが、民主主義のやりかたです。

ぶどう狩りとお買い物・中野酒造見学ツアー

中ブロック後援会主催

○9月25日(日)



各地乗車場所を回って有田へ

11:10 ~ 12:30

ぶどう狩り(有田)と食事

13:00 ~ 13:30

どんどん広場(産直農産物など)

14:00 ~ 15:00

中野酒造見学

16:30ごろ 順次各地で下車

○参加費 4500円

バス代、ぶどう狩り、昼食、お茶、保険等

子ども(小学生以下)は2500円
(子どもさんの昼食はご持参ください)

○募集人数 45人

いっぱいになり次第締め切ります

各地乗車場所・時間

①屋形オークワ前 9:30

②黒田ヒダカヤ前 9:40

③共栄市場前 9:50

④有本バス停 10:00

⑤松島バス停 10:05

お問い合わせ・申し込みは

松坂 090-1702-7310まで

元市議 渡辺忠弘さん 本を出版

「猿坂峠から「西庄村外六ヶ村」を眺める」
(頒価1冊1000円)

在職中木本地区の史跡保存にも力を注いでいた渡辺さん。兵庫生まれの彼が住友金属に就職をし、たまたま加太地区の由緒ある「向井家」の借家住まいをしたことで歴史について知る衝動に恵まれたそうです。これだけの本を書き上げるというのは素晴らしいと思います。興味のある方はぜひご連絡を。

